

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 専任講師

氏名： 上野山 晃弘

研究課題		危機の時代の哲学と宗教—ショーペンハウアーの宗教哲学を中心に
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成29年度個人研究費は、以下の研究計画を実行するために使用された。本年度の研究計画は、ショーペンハウアー(1788-1860)の宗教哲学を中心に、その現代的意義を考察することにあつた。具体的には、現代の応用倫理学の諸問題との関連の中で、ショーペンハウアーが示した宗教哲学(とくに主著『意志と表象としての世界』第四巻で展開される聖人論や共苦及び意志の否定の思想)の意義を究明することを目指した。それはまた、近代市民社会が抱えるさまざまな困難や危機的状況と格闘しながら創造された彼の哲学を、現代的観点から再評価する試みでもあつた。こうした研究活動を行う背景には、「人と人、人と自然との共生」という理念が危機に瀕している現代の時代状況の中で、哲学思想研究の立場から問題状況を分析し、解決に向けた知見を模索しようとする問題意識があつた。
	研究成果	研究成果としては、下記の学会発表「ショーペンハウアーの動物倫理再考」(日本ショーペンハウアー協会)を挙げることができる。ショーペンハウアーの動物倫理は、従来、ユダヤ教や古代ギリシア思想に由来する人間中心主義の系譜に連なるものとして、それゆえ現代的な理論としてはきわめて不十分なものとして評価されることが多かった。しかし、本発表では、そのような従来の評価から批判的に距離をとり、むしろそこに表現された人間中心主義の否定(人間中心的なあり方に対する批判意識の徹底)の意義を究明することを試みた。その中で、彼の宗教哲学(とくに聖人論や意志の否定の思想)の理論的・実践的可能性に関する考察を展開し、さらに彼の倫理学の全体像を「規範倫理の否定」という観点から特徴づける考察を深めることができた。質疑応答の時間では、日本を代表する多くのショーペンハウアー研究者から質問やコメントが寄せられ、有意義な議論を行うことができた。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学会発表：上野山晃弘「ショーペンハウアーの動物倫理再考」(シンポジウム「ショーペンハウアーと生命倫理」提題)、日本ショーペンハウアー協会第30回全国大会、2017年11月26日、杏林大学。
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	なし